Gastro-Health Now

特定非営利活動法人
日本胃がん予知・診断・治療研究機構
Non Profitable Organization
Japan Research Foundation of Prediction, Diagnosis and Therapy for Gastric Cancer

目　次

◆ 胃がんハイリスク検診 ……1
◆ 胃潰瘍、胃がんにならないために ……2, 3
◆ あとがき ……3
◆ 会員入会募集とご支援のお願い…4

印刷　城南印刷工芸(株) 03-3752-3391

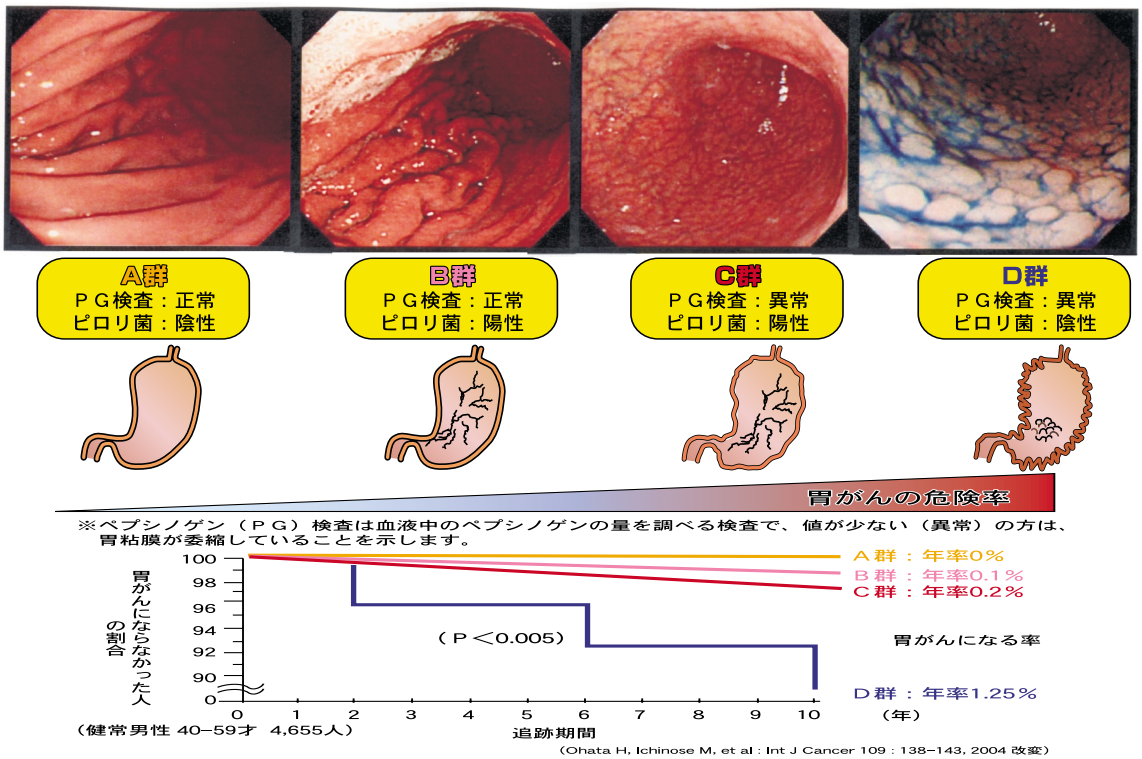
発行所　特定非営利活動法人
日本胃がん予知・診断・治療研究機構
〒141-0021
東京都品川区上大崎 2丁目13番33号
エンゼルプレイス202号室
電 話 03(6277)1147
FAX 03(6277)1148
E-mail : info@gastro-health-now.org
http://www.pepsinogen.org

2008.10.1
第1号

胃がんハイリスク検診ってなあに？

胃がんにはピロリ菌感染が深くかかわっています。ピロリ菌感染のない方から胃がんが発生することはごくまれです。またピロリ菌感染によって胃粘膜の萎縮が進むほど、胃がんが発生しやすくなります。

胃粘膜の萎縮の程度はペプシノゲンという消化酵素ペプシンのもとを測定することでわかり、血液中のペプシノゲンの濃度が基準値以下の人は、6～9倍胃がんになりやすいことがわかっています。



ピロリ菌感染（慢性萎縮性胃炎）の進展に伴う胃がん発生

日本胃がん予知・診断・治療研究機構は、2008年8月20日、東京都より特定非営利活動法人（NPO）として認証されました。
日本の胃がん対策を変革するために、多くの方々にご参加いただけることを願っております。
当 NPO のホームページ【http://www.gastro-health-now.org】は、10月中旬頃アップする予定です。

胃がんハイリスク検診は、ピロリ菌感染の有無と、胃粘膜の萎縮度（ペプシノゲン）を採血検査で判断することで、胃がんになりやすい人か、なりにくい人かを判定する、新しい検診法です。

胃がんハイリスク検診の判定について

胃がんハイリスク検診はピロリ菌感染の有無と、ペプシノゲン値による胃粘膜の萎縮度によって、胃がんになりやすいかどうかをABCDの4段階で判定します。

A群：ピロリ菌感染がなく、胃粘膜の萎縮のない群で胃がんの発生するリスクはほとんどありません。

B群：ピロリ菌感染があるも、ペプシノゲン値が基準値以上（陰性）で、胃粘膜の萎縮の進んでいない群で、胃がん発生率は年率0.1%程度です。

C群：ピロリ菌感染があり、ペプシノゲン値が基準値以下（陽性）で萎縮の進んだ群で、年率0.2パーセント程度の胃がん発生率です。

D群：胃粘膜の萎縮が進んで、ピロリ菌が住めなくなった胃粘膜の状態です。ピロリ菌抗体陰性、ペプシノゲンは陽性となし、胃がん発生は年率1.25%です。

A群→B群→C群→D群の順に胃がんになるリスクが高まっていきます。（図1参照）

胃がんリスクに応じて、内視鏡検査を受けましょう!

ピロリ菌感染は4～5歳以下の免疫力の弱い時期に起こります。

A群の成人は現在、将来において胃がんになる危険はほとんどなく、無症状であれば、胃の内視鏡検査を受ける必要がないと考えられます。

BCD群については、内視鏡精査の実施を行うことで、早期に胃がんを発見することを目指します。厚生労働省研究班では胃がんになる危険度に応じて、B群は3年に1度、C群は2年に1度、D群は毎年の内視鏡実施を推奨しています。

胃がんハイリスク検診で重要なことは、胃がんのリスクに応じた内視鏡受診を将来も継続していくことです。

胃がんが発見されるのは、ハイリスク検診を実施した年だけではなく、5年後、10年後、20年後かも知れないからです。

またピロリ菌感染による胃粘膜の萎縮はゆっくりとすすむので、ペプシノゲン値は10年程度ほとんど変化しません。このことから胃がんハイリスク検診の実施間隔は５～10年程度で十分です。

胃がんハイリスク検診を受診する際に気をつけなくてはいけないこと

胃の手術を受けたことのある方、過去にピロリ菌の除菌療法を受けた方、現在胃の薬を飲んでいる方、腎機能の悪い方は、胃がんハイリスク検診の結果が正しく出ない場合がありますので、受診の際に必ずお申し出ください。

また、ピロリ菌感染がなく、ペプシノゲンが陰性のＡ群からの胃がん発生は極めて低い率ですが、ゼロではありません。

おなかの自覚症状のある方は、受診の際に必ずお伝えください。

胃潰瘍、胃がんにならないために

～武内享さん（元チェッカーズ）バースデイイベントより～

写真１

写真２

2008年7月21日、池尻のライブハウス「ＲＯＣＫＥＲ　ROOM」で行われた、元チェッカーズのギタリスト、武内享さんのバースデイイベントで、武内さんとNPO事務局の笹島雅彦医師とのトークショーが行われました。テーマは「ヘリコバクター・ピロリと胃潰瘍、胃がん」。

胃の痛みに悩まされていた武内さん。

鼻からの内視鏡検査で胃潰瘍と診断され、同時にピロリ菌感染もわかり、潰瘍治療の後にピロリ菌の除菌療法を行って、元気に復活された体験談を語られました。

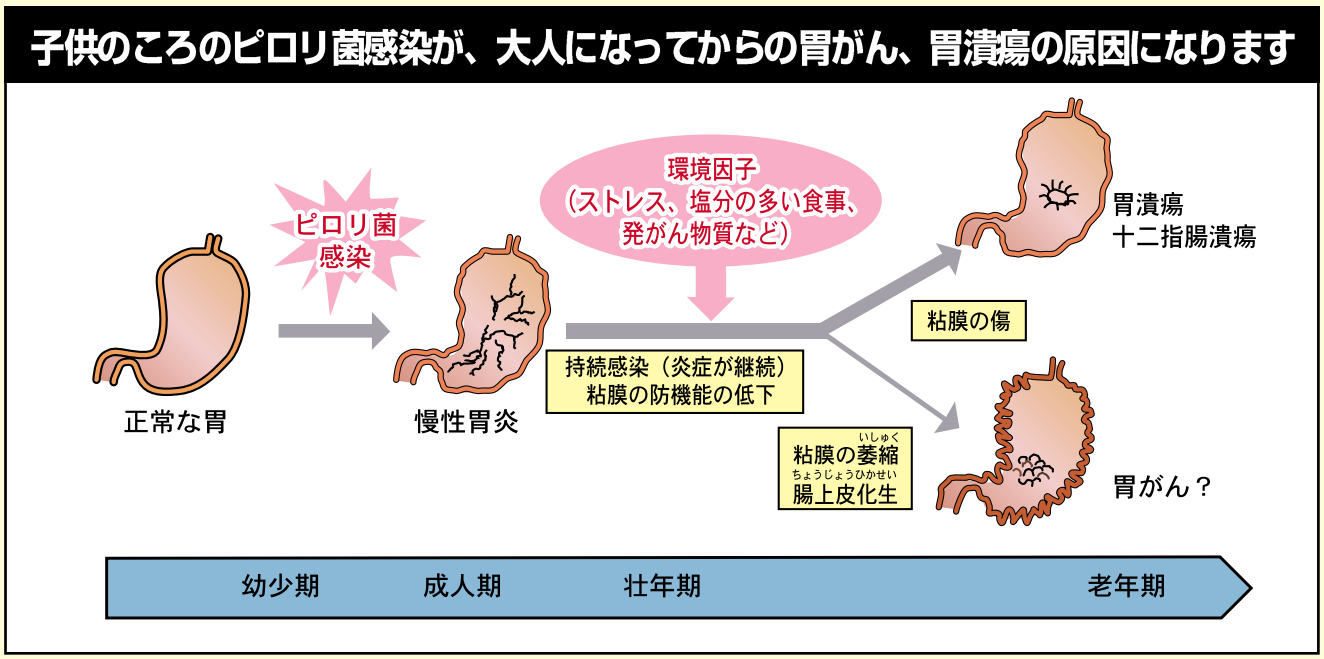
笹島医師は、ピロリ菌と胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃がん、そして内視鏡検査について、解説しました。

「ピロリ菌は胃潰瘍、十二指腸潰瘍、そして胃がんの発生に深く関与していています。ピロリ菌を除菌することで、潰瘍の再発は抑えられます。若い時期にピロリ菌感染の有無をチェックして、早めに除菌すれば、胃がんになる可能性は低下します。ピロリ菌検査はどこの医療機関でも、簡単に受けられます。

また胃がん、胃潰瘍、十二指腸潰瘍の診断に不可欠な内視鏡検査も、機器の進歩で、以前に比べてずいぶん楽に受けられるようになりました」

患者に扮した武内さんとの診察ショーに、会場は大いに沸きました。

写真１：鼻からの内視鏡の細さを解説する笹島医師
写真２：ご自分の胃潰瘍の内視鏡写真をプリントしたＴシャツを着た武内享さん



図：子供のころのピロリ菌感染が、大人になってからの胃がん、胃潰瘍の原因になります。(当日スライド)

あとがき

「目黒のさんま」

目黒駅を降りると、芳ばしい煙が漂ってきました。

白金方向に向かう歩道はいつにない人だかりで、それをかき分けながら、やっとのことで事務所のドアを開けると、部屋の中からも同じ匂いがします。

事務局のS君がおいしそうにさんまを食べていました。

「目黒のさんま祭り」で、宮古港から直送されたさんまの塩焼きが、通行人に振舞われているとのこと。

鷹狩り来た殿様が、住民が焼いていたさんまを食べてみたところ美味しくて、お城に帰ったあとも所望するも、出てきたさんまは、冷めて、骨が抜かれていてちっともおいしくない。どこのさんまか？と尋ねると、日本橋の魚河岸から取り寄せた上等なものとのこと。

「それはいかん、さんまは目黒に限る」

というおちの落語噺、「目黒のさんま」に因んだお祭りです。

S君はすっかり噺家口調です。

「来週もあるんですよ、目黒のさんま祭り、今度は正真正銘の目黒のさんまです、このさんまはにせものなんです」

目黒駅は品川区にあるけれど、品川区側の目黒駅前商店街が目黒のさんま祭りをやるのはおかしいと、品川のさんまを平らげておきながら、S君は熱っぽく語ります。

「歴史的には、殿様がさんまを食べたのは、間違いなく目黒区側なんです。鷹番って地名も残っているぐらいですから」

殿様がさんまを食べたのが歴史的事実かどうかはさておき、目黒区民のS君にとっては譲れない様子です。

来週の目黒のさんま祭りは目黒区側の主催で、気仙沼のさんまが焼かれ、大根おろしも、すだちも、すべて品川側とは違う産地がスポンサーになっていて、２つのさんま祭りは昔から対立しているとのこと。

S君、口をぬぐいながら、

「内視鏡とバリウムみたいなものです、どっちが内視鏡で、どっちがバリウムかは……」

合点がいって、私がうなずくと、

「実は来月、恵比寿でもやるんです、隣のさんま祭り、っていうんです」とS君が苦笑い。

「じゃあ恵比寿のさんまが、ペプシノゲン法だね」と私。

「先生、座布団1枚！」

大笑いのS君です。　（三木）

会員（入会）募集とご支援のお願い

当ＮＰＯ法人の趣旨や活動にご賛同いただき、さらに支援してくださる個人の方ならびに法人・団体を募集致しております。医療関係者、一般の方を問わずどなたでもご入会いただけます。ひとりでも多くのみなさまのご理解と暖かいご支援をお願い申し上げます。

会員（入会）募集要項

会員は、積極的な運営に関わらなくても、当ＮＰＯ法人の趣旨や活動に賛同して当ＮＰＯ法人の運営を支援していただける会員です。

■ 会員特典

1）機関紙「Gastro-Health Now」（年６回隔月発行）の送付
2）当ＮＰＯ法人が主催するセミナー、イベントへのご案内とご参加

■ 年会費　※

個　人・・・・・　一口　３,０００円（一口以上）
法人・団体・・・　一口 ３０,０００円（一口以上）

※会費は、毎年４月１日より、翌年３月３１日までの年度制となっています。

ゆりかもめ　　（徳子）

入会ご希望の方

入会申込書にご記入いただき、
ＦＡＸ（03-6277-1148）して下さい。

会費のお支払方法

下記の銀行振り込み又は、同封の郵便振替でご入金下さい。（振込手数料はご負担下さい）

＊　三菱東京ＵＦＪ銀行 目黒駅前支店　普通預金 No. 0008527
口座名義：特定非営利活動法人　日本胃がん予知・診断・治療研究機構
理事長　三木　一正

＊　郵便振替口座番号：００１３０－９－４２９２００
口座名称：日本胃がん予知・診断・治療研究機構

入会に関する、お問い合わせは、

お電話　03-6277-1147、FAX 03-6277-1148、
メール　info@gastro-health-now.org

まで、お気軽にご連絡ください。